



エコ・アイス(セントラル)

大規模な建物に向けており、現場形態や負荷に応じて独自に熱源機、蓄熱槽、制御装置を選定、構築する。水蓄熱槽に比べて、槽容積の縮小が可能。



エコ・アイス

エコ・アイス(個別分散)

ビル用マルチエアコンと氷蓄熱槽をユニット化した氷蓄熱式空調システム。室内機を自由に組み合わせ、フロア、エリアごとの個別空間に対応でき、中小ビルから工場、大型ビルまで設置が可能。

エコ・アイス(mini)

5～7馬力相当で、50～200㎡の店舗や事務所などに適した氷蓄熱式空調システム。蓄熱槽がコンパクトで設置場所をとらないため、コンパクトな設計が可能。



水蓄熱

水蓄熱式空調システムは主に、地下の空間を水蓄熱槽として利用。冷房時は冷水、暖房時には温水で蓄熱する。蓄熱槽の水は消防用水、災害時の雑用水にも利用が可能。



氷蓄熱

氷蓄熱式空調システムは、夜間に夏は氷、冬は温水を作って蓄えておき、昼間の冷暖房などに利用される。



床暖房

夜間電力を利用して床に設置された蓄熱材や床材に熱を蓄え、日中にその熱を利用して暖房を行う。



ショーケース

スーパーマーケットやショッピングセンターにおいて、閉店後や人の少ない夜間に、蓄熱槽に氷をつくり、昼間のショーケースの冷却に利用する。



生産プロセス

生産プロセスで利用される加熱・冷却システムで、食品の加熱や冷却などで利用される。



温水器

夜間電力を利用して貯湯する大型電気温水器や温水器。



ヒートポンプ給湯

エコキュートなどのヒートポンプを利用した給湯システム。従来型の給湯機と比べてCO₂排出量を大幅に抑えられる。



空冷・水冷ヒートポンプ

少ない投入エネルギーで、空気中から熱をかき集めて、大きな熱エネルギーとして利用する技術。CO₂排出量も大幅に削減できるので、地球環境保全にも貢献している。



地中熱

地中熱利用は、地中の温度変化が少ないことを利用し、交換器で採熱あるいは排熱して冷暖房に活用するシステム。大気中に放熱しないので、夏期のヒートアイランド現象の抑制に効果がある。



下水熱

下水の水温は大気に比べ、年間を通して安定しており、冬は暖かく、夏は冷たい特質があり、都市内に豊富に存在している。この下水水温と大気との差(温度差エネルギー)を、冷暖房や給湯などの熱源に利用する。



排熱

工場、変電所、地下鉄、温泉排湯などから放出される排熱をヒートポンプの熱源に利用。排熱を有効活用することで、省エネ、エネルギーコスト削減につながる。